

美馬市美馬町の野鳥生息状況

鳥類班（日本野鳥の会・徳島県支部）

吉田 和人*

要旨：美馬市美馬町において2007年12月～2008年11月の間、延べ72日に及ぶ野鳥生息調査を実施した。里地・里山を代表するヒクイナやカヤクグリなど16目40科115種と外来種2種、さらに付随して野生哺乳類7種を記録した。この中には、絶滅の危機に瀕する種をリストアップした環境省及び徳島県版レッドデータブック記載種のオオタカ、ハヤブサ、ヤイロチョウ、ウズラ、ヨタカなど18種の野鳥が含まれている。町内自然環境を山地、谷筋、農耕地に大別し、各環境区分ごとの出現状況について考察した。

キーワード：美馬町、竜王山、吉野川、野鳥、ヤイロチョウ

1. はじめに

美馬市美馬町は、讃岐山脈南面に位置し面積46.44km²。北端に近い竜王山（1,059.9m）から南端の吉野川（45m）まで標高差1,015mほど。東西に野村谷川、鍋倉谷川、中野谷川、高瀬谷川による扇状地が並ぶ。集落の中心は、吉野川河岸段丘域から扇央・扇端部である。吉野川流域は水田、扇央域は畑地、山地は主にスギ・ヒノキの植林地として土地利用されている。わずかに、神社境内や植林に不適な崖地などには自然林に近い植生が残る。水田地帯には、河畔林及び水害防備竹林も見られる。貫流する大小の河川は、おしなべてコンクリート化されている。山間の溪谷は、幾重にも砂防ダムが構築され、徳島自動車道による環境分断が認められる。

町内北端部には「竜王山鳥獣保護区」が設定されているほか、吉野川流域は銃猟禁止区域に指定されている（写真1）。

調査期間は、2007年12月から2008年11月の1年間とした。調査員は7名。延べ72日従事した。町内全

域をカバーすべく広く分散して人員配置し定点観測（30分以上定点にとどまり、見聞するすべての鳥種とその個体数などを記録する）したほか、代表的な3地点、すなわち山地（竜王山）、谷筋（中野谷）、農耕地（郡里）において、毎月1回、同一スタッフによる同一コースでのラインセンサス（あらかじめ決められたルート1kmを、時速2km程度で歩きながら左右各25m以内に見聞するすべての鳥種とその



写真1 三頭山から竜王山を望む

* 阿南市富岡町玉塚41-2

個体数などを記録する)を行った。調査に際しては、双眼鏡、望遠鏡、望遠レンズ付カメラなどを駆使し、可能な限り証拠写真撮影にも努めた。平行して、野生哺乳類についても同様に記録した。

観察地点は、地名、標高、4桁のメッシュコード(図1)で表記した。



写真2 竜王山センサスコース

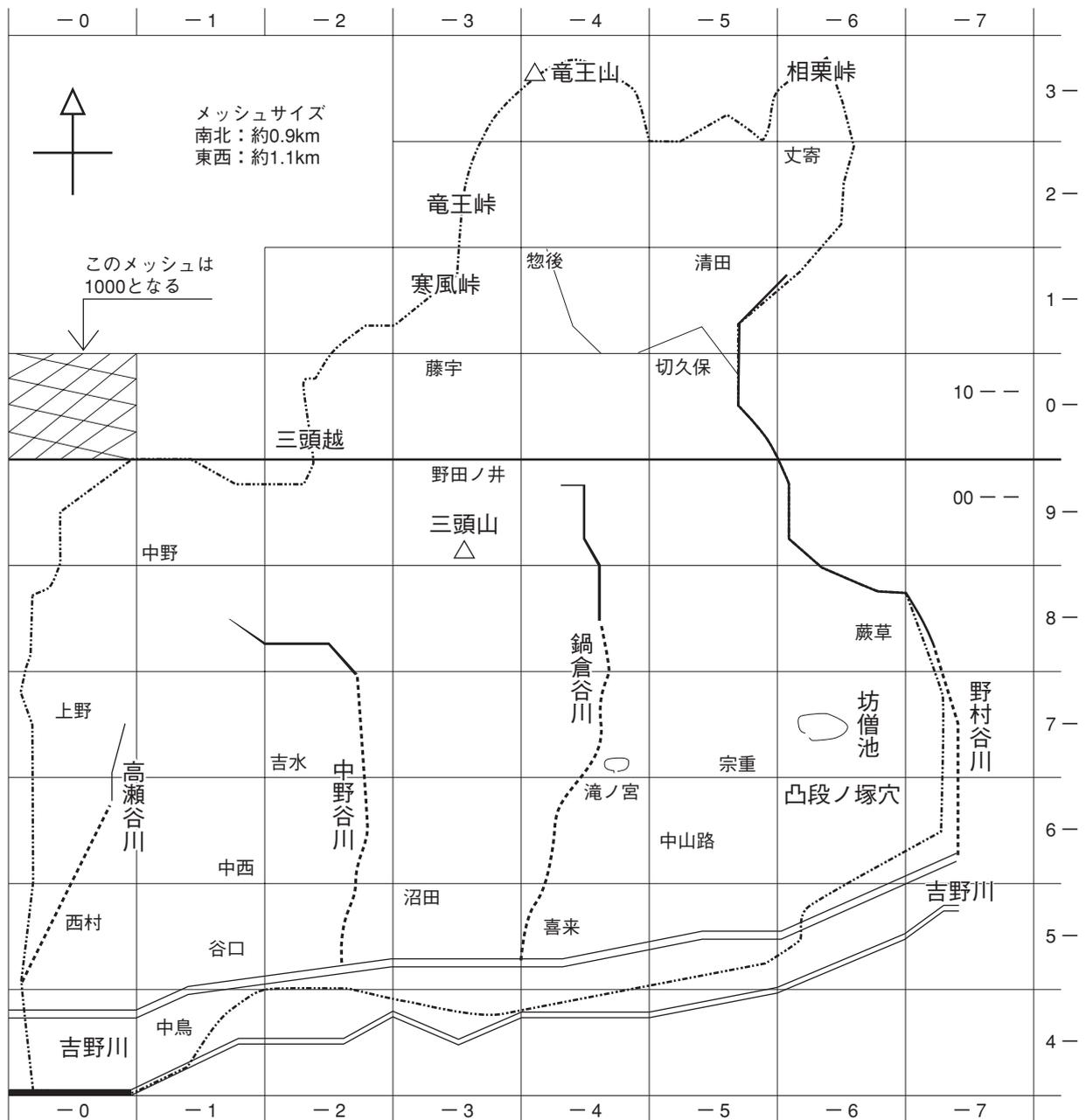


図1 調査用メッシュ地図

2. 山地 (標高約500~1,000m)

山地を代表して竜王山直下にてラインセンサスを実施した(表1)。ルート足下はアスファルト舗装で、コナラ、アベマキ、アカマツなどにスギ・ヒノキ人工林がパッチ状に散在する典型的な森林景観である(写真2)。

ヒヨドリ、ウグイス、ヒガラ・ヤマガラなどカラ類、メジロなどが、ほぼ年間を通して出現した。イカル、カケス、ハシブトガラスなどもそれに近い。珍しく、アカゲラが観察された。四国地方には分布しないとされている種であるが、1986年10月5日、旧木沢村で初めて確認された。以来、県内各地で散見されている。本個体は本州方面から鳴門海峡経由で飛来し讃岐山脈沿いに西進してきたものと思われる。4~6月のアオバトは繁殖中と考えられるが、いまだその確証は県下全域においてすら得られていない。

定点観測を含め確認したハチクマ、サシバ、チゴハヤブサ(写真3)、マミジロ、メボソムシクイ、エ



写真3 チゴハヤブサ



写真4 エゾビタキ

表1 竜王山の記録

種名\観察月日	12 /8	1 /6	2 /16	3 /2	4 /2	5 /3	6 /3	7 /1	8 /1	9 /15	10 /13	11 /2
ヤマドリ			1		2	○						
キジ						○	○					
キジバト				1			○			2	1	
アオバト		1		1	○	○	○					
カッコウ								○	○			
ツツドリ						○	○	○				
ホトトギス							○	○	○			
アオゲラ	1	1	○	○	○				○		1	1
アカゲラ	1											
オオアカゲラ												1
コゲラ	8	3		1	○	○			○	○	1	2
ヤイロチョウ							○					
ビンズイ												1
ヒヨドリ	1	1	1	1		6	6	6	4	3	7	5
ミソサザイ										1		
ルリビタキ		○										
ジョウビタキ	1	1	1		1							
マミジロ										1		
クロツグミ							○	2	○			
シロハラ	○		4	2								
ツグミ		2			3							5
ヤブサメ								2				
ウグイス	7	1	1	○	5	1	1	1	○	1	○	
メボソムシクイ										1		
センダイムシクイ						1		1	○			
キビタキ						4	5	4	○	2	1	
オオルリ						1	1			1	○	
コサメビタキ								2	○		1	
エナガ	3	2			4		1	○			6	10
ヒガラ	4	2	2	1	7		3	○	1		1	
ヤマガラ	6	4	2	4	5	1	2	3	○	2	1	3
シジュウカラ	6	1		3		3	2	3	1	3	1	7
メジロ		1		3	4		6	5	23	4	7	6
ホオジロ		○				1	3	1	4	1	7	1
ミヤマホオジロ	4				1							
カワラヒワ				3								
マヒワ		○										
ベニマシコ		1										
ウソ						○						
イカル		1	○	2		○		3	○			○
カケス	1	○	1	○	○	○		1		○		
ハシブトガラス	1					○	○	○	○	○	1	○
総個体数	44	22	13	22	32	18	30	34	33	22	37	41
種類数1	13	14	8	11	9	8	10	13	5	12	14	10
種類数2	14	18	9	14	13	15	18	19	17	15	16	12

備考1: ○はラインセンサスの範囲内で観察されず、範囲外又は復路で観察された種

備考2: 種類数1はラインセンサスの範囲内の記録

備考3: 種類数2はラインセンサスの範囲外も含めた記録

ゾビタキ(写真4)などにより、讃岐山脈に沿って東西に移動する渡りルートが存在を強く思わせる。

今回の調査では、森林生態系の頂点に位置するク

マタカを現認できなかった。このことは、竜王山一帯が生態学的に貧弱化（種の多様性が豊かでない）していることの証左である。

この環境区分では、環境省及び徳島県版レッドデータブック（RDB）記載種としてハチクマ、サシバ、ヨタカ、オオアカゲラ、ヤイロチョウ、カヤクグリ（写真5）、メボソムシクイを確認した。サシバ、ヨタカ、オオアカゲラについては、繁殖の可能性がある。

ここで特筆すべきはヤイロチョウである。定点調査と合わせ6～8月に4回確認された。本種は、環境省版RDBで「近い将来、絶滅の危険性が高い」とされ「絶滅危惧IB類」に指定されている。国内生息数は、最大限100～150羽程度。夏鳥として東南アジア方面から渡来するも、余りに個体数が少ないためペア形成さえままならない。地上に営巣するため外敵が極めて多い。加えて、希少価値を狙ったカメラマンによる繁殖攪乱がそれに追い打ちをかける。生息環境は、昼なお薄暗い大径木の暖温帯照葉樹林。当地はそんな理想的な環境にはないが、繁殖の可能性については否定できない。しかし、積極的な探索を取って避けた。本種は非常にデリケートな鳥で、特に繁殖前期は人の接近それ自体によって営巣放棄してしまうからである。

なお、獣類についてはハクビシン、ニホンリス（写真6）、テン、イノシシ（写真7）の生息を確認した。

3. 谷筋（標高約50～500m）

谷筋としては、中野谷（標高約65～100m・メッシュ番号0052～0062）にてラインセンサスを実施した（表2）。扇中央に位置し、普段は潤れ谷。周辺にはニセアカシア、センダン、アラカシなど、堤防にはサクラが目立つ（写真8）。

キジバト、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ホオジロ（写真9）、スズメ（写真10）、ムクドリ（写真11）、ハシブトガラスなどがほぼ周年記録された。いずれも山里を彷彿とさせる人に近い種ばかりである。畑作を中心とした農作物に依存しながら、人の生活空間にうまく順応する能力を持ち合わせている。前項の森林鳥類（表1）と比較して、総個体数は約2.5

倍多い。これは、当地での生息密度が相対的に高いことを顕示しているが、集合性の強いカワラヒワ、スズメ、ムクドリ、カラス類の存否がセンサス結果に与える影響は大きい。人の営みによって限られた鳥種のみが不自然に隆盛を極める図であり、単純に自然環境の質を問うものではない。（因みに、種類数は約17%減少している。）

この環境区分では、RDB記載種としてハイタカ、オシドリ、アオバズク、ルリビタキを確認した。オ



写真5 カヤクグリ



写真6 ニホンリス



写真7 イノシシ

表2 中野谷の記録

種名\観察月日	12 8	1 6	2 16	3 2	4 2	5 3	6 7	7 1	8 1	9 15	10 13	11 14
アマサギ								○				
アオサギ				1	○							
トビ		○	1	○	○							
オオタカ								○				
ハイタカ				1								
ノスリ				○								
キジ				○	○	○				1		
キジバト	1	3	1	6	1	1	○	1	2	1		1
ホトトギス							○					
コゲラ										○		
ツバメ					1	2	3	1	2	7		
キセキレイ			1									1
ハクセキレイ		○										
セグロセキレイ	3	2		○	1			○	1	1	○	1
ビンズイ	3				1							3
ヒヨドリ	4	2	3	6	7	4	2	4	6	9	8	3
モズ			1				1				2	2
ジョウビタキ		3	2	1	○							2
シロハラ		1	1	3	1							
ツグミ			2	2	1							4
ウグイス	1	2	1	1	1	2	4	7	○	○	2	5
センダイムシクイ						1						
エナガ	6	5		2								
ヤマガラ					1			1				
シジュウカラ	3	2	2	2	2			3		2		4
メジロ	3	2	8			1	4		5	6	1	○
ホオジロ	13	9	3	9	15	4	9	8	3	4	13	11
カシラダカ	1	1		2								
アオジ	4	10	16	10	18	2						4
カワラヒワ	3		6	8	2	5	1	3			1	4
シメ												5
スズメ	11	92	24		3	15	16	14	5	4	11	2
ムクドリ	36	24	24	36	30	15	15	2		30		
ハシボソガラス					1	1	○					1
ハシブトガラス		5	3	2	2	2	3	1	○	7	1	○
コジュケイ		○						○		○		
総個体数	92	163	99	92	88	55	58	45	24	72	39	53
種類数1	14	15	17	16	17	13	10	11	7	11	8	16
種類数2	14	18	17	20	21	14	13	15	9	14	9	18

備考1：○はラインセンサスの範囲内では観察されず、範囲外又は復路等で観察された種

備考2：種類数1はラインセンサスの記録

備考3：種類数2はラインセンサスの範囲外も含めた記録



写真8 中野谷センサスコース

シドリ、アオバズクは大径木の洞に営巣する。しかし、拡大造林によって、そんな植生は皆無に近い。かろうじて点在する社寺林に昔日の面影を残すのみであり、現にそこでアオバズクの声を聞いた。逃げまどう小鳥類を捕殺して生きるハイタカが生息できるのは、小規模な生態ピラミッドが形成されているという意味において望ましい。

なお、獣類についてはニホンノウサギ、タヌキの死体を発見した。いずれも轢死と思われる。



写真9 ホオジロ



写真10 スズメ



写真11 ムクドリ

4. 農耕地（標高約50m）

農耕地としては、郡里の水田地帯（標高約50m・メッシュ番号0065～0066）にてラインセンサスを実施した（表3）。貫流する河川・用水路はコンクリート三面張りだが、底面の土芥に若干の草生を見る。農道沿いの電柱には防鳥用装置がある（写真12）。なお、吉野川及びその河川敷もこの区分に含める。

ヒバリ（写真13）、セグロセキレイ（写真14）、ホオジロ、カワラヒワ（写真15）、スズメ、ハシボソガラスなどが四季を通して優占的であった。ここも前項（表2）同様、人の営為をうまく利用できる限られた種のみがしたたかに生きている図である。違いがあるとすれば、利用物（主に餌）が畑作物か水田作物や放流魚かの程度である。総個体数、種類数とも最多であった。例えば、森林鳥類（表1）と比して、総個体数で約3倍、種類数でも約26%増である。これは前述の通り、基本的に人から給餌を受ける採餌構造にあるのと、河畔林及び水害防備竹林、大小の河川、遊休地の存在などが、平闊な水田環境を重層化しているためと考えられる。

吉野川には、カモ類やカワウも生息する。前者は昼間の休憩場として、後者は餌場として利用している。1970年代まで県内では珍鳥だったカワウが以後爆発的に増えたのは、琵琶湖（滋賀県）をはじめとする全国的な養殖魚の放流に因るところが大きい。

この環境区分では、RDB記載種としてチュウサギ、トモエガモ、ミサゴ、オオタカ、ハヤブサ（写真16）、ウズラ、ヒクイナを確認した。ミサゴは、もっぱら吉野川の魚類をダイビングキャッチして、オオタカ・ハヤブサは同河川流域やその周辺に生息する鳥



写真12 郡里センサスコース

表3 郡里の記録

種名\観察月日	12 /24	1 /26	2 /16	3 /2	4 /5	5 /3	6 /7	7 /1	8 /1	9 /15	10 /13	11 /14
ゴイサギ								○				
アマサギ								○	○	○		
ダイサギ				○			2	○	○	○	○	
チュウサギ										○		
コサギ								○				
アオサギ	○			○		○		○	○		○	○
マガモ					○							
カルガモ						○	3					○
ミサゴ				○								
トビ			○	○								
ハイタカ					1							
チョウゲンボウ	1		○	○							○	
ウズラ							○					
キジ					○							
バン	○			○								
コチドリ					○							
クサシギ				○	○					○	○	○
イソシギ										○		
タシギ	○	○	○	○	○	○				○		○
キジバト				○	1	○			2	○		○
カワセミ		○	○	○	○	○					○	○
ヒバリ	2	6	18	17	1	6	3	4	2	○	3	1
ツバメ					○	3	2	4	1	○	○	
キセキレイ				○						○	1	○
ハクセキレイ	2	3	○	1	○	1					26	○
セグロセキレイ	○	1	○	○	1	○	6	○	○	○	3	2
タヒバリ	12	55	6	○								36
ヒヨドリ												○
モズ		○		○						○	○	○
ジョウビタキ				○								
ノビタキ											○	
アカハラ												○
ウグイス												○
オオヨシキリ								○				
セッカ						○	○	○	1	○		
ツグミ		○	6	6	2	○						
ホオジロ	○	○	1	1	○	○		○	○	○		○
ホオアカ		○		○								
アオジ					○							
カワラヒワ	11	315	13	34		2	8	3	2			42
スズメ	129	10		2	2	○	44	2	6	35	7	24
ムクドリ	○			○		○		○	15	○		○
ハシボソガラス	3	2	○	○	4	○	3	5	4	6	2	1
ハシブトガラス	○			○	○		○			○	○	○
ドバト								22	○		○	
総個体数	160	392	44	61	12	12	71	40	33	41	42	106
種類数1	7	7	5	6	7	4	8	6	8	2	6	6
種類数2	14	13	12	25	18	16	11	16	14	18	16	21

備考1：○はラインセンサスの範囲では観察されず、範囲外又は復路等で観察された記録

備考2：種類数1はラインセンサスの記録

備考3：種類数2はラインセンサスの範囲外も含めた記録



写真13 ヒバリ



写真14 セグロセキレイ

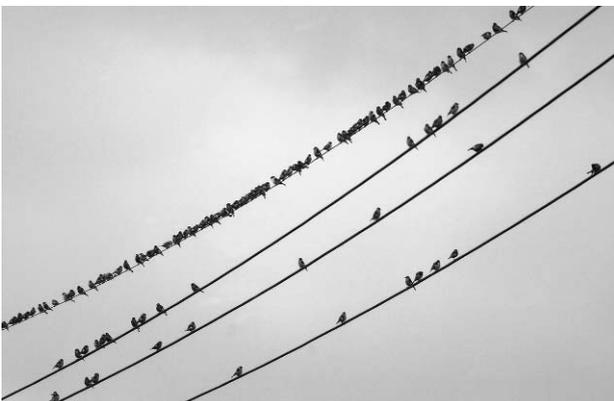


写真15 カワラヒワ



写真16 ハヤブサ

類を捕食して生きている。いずれも私たちが野放図に使用する様々な化学物質が水質を汚染し、食物連鎖によってそれらが生物濃縮され死に至っていると考えられる。ウズラ・ヒクイナについては生息地の消滅、すなわちヨシ原に代表されるような広い湿地の減少が致命的となっている。

5. まとめ

日本産鳥類542種の内、350種が県内で記録されている。今回の調査で、その内の16目40科115種と外来種2種及び野生哺乳類7種を確認した。この中には、RDB記載種が鳥類のみ18種含まれている。これらの鳥種が絶滅を危惧されるに至った原因の99%以上は生息地の破壊や環境汚染など、人間の営為に淵源すると言われている。カラス類やスズメ、ムクドリなど、人に近い種類にしか耳目を集めない中で、その実、静かに、そして確実に姿を消しているのである。その多くは、微妙な生態系のバランスの中で、かろうじて生き長らえてきた種である。高度に進化した体のつくりから、生存できる環境は極めて厳密に限定されてしまっている。いわゆる、環境選択の幅が狭いのである。

宇宙誕生のビッグ・バン以来、137億年という想像を絶する時の流れの中で、有象無象の累が現今の世である。鳥にしろ、虫にしろ、草木にしろ、諸々が生態系という名の「宇宙船地球号」を構成している。その構成員たる地球の仲間たちの進化の歴史は、絶滅の歴史でもある。問題はそのスピード。化石から判断して、年間4種程度なら自然現象と言えるが、現下においては1時間に8種、すなわち年間7万種あまりに達しているそうである。換言すれば、「宇宙船地球号」から猛烈な勢いで部品が剥落している。これを懐手して座視すればどうなるのだろうか。

およそ2000年にも亘って地球が宇宙の中心だという「天動説」が世の常識だったような人間中心の考え方を改め、人間は自然の一員とする「自然中心主義」へ意識改革しなければならない。都合よく真実を曲解してはならないのである。果てのない欲望から解放され、他を思いやる心こそ緊要ではなからうか。生命のあり方の本然に戻り、調和のとれた和諧社会の実現に向け、今、人間の心と英知が問われている。

6. 目録

2007年12月から2008年11月まで、1年間の調査記録から、個体数、繁殖の成否、生息環境などに関して記録性のあるものを優先し、1種につき2例まで「別表1『美馬市美馬町』野鳥目録」にまとめた。その内コジュケイとドバトは、日本鳥類目録に従い外来種として区別した。種名に続き学名、(下段、左から)西暦年/月/日、個体数、地名、メッシュ番号、標高(m)の順に、さらに下段には記録の具体性について記載した。

また、野生哺乳類の記録についても、同様に「別表2『美馬市美馬町』獣類目録」にまとめた。

調査員

笠井 正, 東條秀徳, 中川澄男, 三ツ井政夫, 三宅 武, 吉田和人, 吉成宏征

写真撮影者

東條秀徳：1, 2, 4, 5, 6, 7, 8, 11, 12, 15, 16
 三ツ井政夫：9, 10, 13, 14
 中川澄男：3

文 献

内田清一郎 (1983)：『鳥の学名』, ニュー・サイエンス社。
 環境省自然環境局野生生物課 (2002)：『改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—』, (財)自然環境研究センター。
 久保敬親ほか (2001)：『日本の野生動物』, (株)山と溪谷社。
 黒田長久 (1982)：『鳥類生態学』, (株)出版科学総合研究所。
 東條秀徳 (2008)：美馬市旧木屋平村の野鳥生息状況, 阿波学会紀要第54号, 49~64頁, 阿波学会・徳島県立図書館。
 徳島県 (2006)：『徳島県鳥獣保護区等位置図 (平成18年度)』, 徳島県。
 徳島県版レッドデータブック掲載種選定作業委員会 (2002)：『徳島県の絶滅のおそれのある野生生物—徳島県版レッドデータブック—』, 徳島県県民環境部環境局循環型社会推進課。
 日本鳥類目録編集委員会 (2000)：『日本鳥類目録 (改訂第6版)』, 日本鳥学会。
 日本野鳥の会徳島県支部目録部 (1988)：『徳島県鳥類目録』, 日本野鳥の会徳島県支部。
 真木広造・大西敏一 (2000)：『日本の野鳥590』, (株)平凡社。
 山田常雄ほか (1972)：『岩波 生物学辞典』, (株)岩波書店。
 山本良一 (2003)：『1秒の世界』, (株)ダイヤモンド社。
 吉田和人 (1999)：『阿波の野鳥』, (株)教育出版センター。

別表1 「美馬市美馬町」野鳥目録

◎	カイツブリ目	PODICIPEDIFORMES			
○	カイツブリ科	Podicipedidae			
1	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>			
	2007/12/2	1	吉野川	0040	60
	水面に浮かび, 時々潜る。				
	2008/9/24	11	坊僧	0076	140
	坊僧池に浮かぶ成鳥6羽, 幼鳥5羽。				
◎	ペリカン目	PELECANIFORMES			
○	ウ科	Phalacrocoracidae			
2	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>			
	2008/1/5	152	吉野川	0054	46
	約100羽は岸で休憩, 残りは泳ぎながら採餌。				
	2008/8/2	4	吉野川	0040	60
	下流から飛来。				
◎	コウノトリ目	CICONIIFORMES			
○	サギ科	Ardeidae			
3	ゴイサギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>			
	2008/6/13	1	妙見	0054	55
	用水路から飛び立つ。				
	2008/7/1	1	鍋倉新橋	0054	72
	水田で。成鳥。				
4	ササゴイ	<i>Butorides striatus</i>			
	2008/8/2	1	吉野川	0040	53
	水際で。				
5	アマサギ	<i>Bubulcus ibis</i>			
	2008/5/25	27	食肉センター東	0055	52
	代掻き中の田で採餌。夏羽, 冬羽ほぼ同数。				
	2008/8/2	12	谷口	0052	60
	休耕田で採餌。				
6	ダイサギ	<i>Egretta alba</i>			
	2008/8/2	16	吉野川	0054	46
	1羽は夏羽, 15羽は冬羽。川原で休憩。				
	2008/10/18	1	坊僧	0076	140
	池で採餌。				
7	チュウサギ	<i>Egretta intermedia</i>			
	2008/8/2	5	谷口	0052	60
	休耕田で採餌。				
	2008/8/9	1	郡里	0055	50
	田の畔や水田で採餌。				
8	コサギ	<i>Egretta garzetta</i>			
	2008/7/6	2	吉野川	0055	50
	川原の水際で。				
	2008/8/2	7	轟	0066	50
	水田で採餌。				
9	アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>			
	2008/5/23	3	吉野川	0041	60
	中州で休む。				
	2008/8/2	1	野村谷川	0086	100
	川原の岸に佇立。				
◎	カモ目	ANSERIFORMES			
○	カモ科	Anatidae			
10	オシドリ	<i>Aix galericulata</i>			

2008/6/13	1	野村谷川	0086	100	路上から飛び立つ。
		♀型。すぐ草むらに隠れた。			
2008/10/18	6	吉野川	0044	47	22 オオタカ <i>Accipiter gentilis</i>
		すべて♂。美馬橋上流岸近く。			2007/12/24 1 吉野川 0044 50
11 マガモ <i>Anas platyrhynchos</i>					若鳥。河畔の柳にとまっていた。
2007/12/24	154	吉野川	0049	45	2008/4/19 1 吉野川 0055 50
		美馬橋上流で。			成鳥。河川敷でキジバトを追う。
2008/1/16	190	吉野川	0054	50	23 ツミ <i>Accipiter gularis</i>
		岸近くの水面や土手に休む。			2008/3/29 1 竜王山 1034 890
12 カルガモ <i>Anas poecilorhyncha</i>					二次林の谷へ急降下。
2008/1/16	55	吉野川	0054	50	24 ハイタカ <i>Accipiter nisus</i>
		水面に浮かぶ。			2008/5/17 1 夏弥喜 0091 800
2008/7/6	8	轟	0066	50	2008/9/24 1 蕨草 0086 180
		稲田で親鳥1羽がヒナ7羽を連れていた。			頭上を南西に飛び去る。
13 コガモ <i>Anas crecca</i>					25 ノスリ <i>Buteo buteo</i>
2007/12/24	116	吉野川	0043	45	2007/12/30 1 喜来 0055 50
		美馬橋の上流で。			センダンにとまった小鳥を襲う。
2008/10/18	152	坊僧	0076	140	2008/2/11 1 坊僧 0076 140
		坊僧池に浮かぶもの、法面で休憩するもの。			池の上空を西方へゆっくり帆翔。
14 トモエガモ <i>Anas formosa</i>					26 サシバ <i>Butastur indicus</i>
2007/12/24	32	吉野川	0043	45	2008/3/29 9 三頭山 0093 740
		美馬橋の上流で他のカモ類と共に。			南東方向を目線高度で飛行。
15 オカヨシガモ <i>Anas strepera</i>					2008/9/23 35 三頭山 0093 740
2007/12/24	13	吉野川	0043	45	渡り。午前7時25分から午後3時までの記録。
		美馬橋の上流で他のカモ類と共に。			○ ハヤブサ科 Falconidae
2008/3/2	2	吉野川	0052	52	27 ハヤブサ <i>Falco peregrinus</i>
		岸近くの水面で。			2007/12/24 1 吉野川 0041 55
16 ヒドリガモ <i>Anas penelope</i>					河川敷上空を帆翔。
2007/12/2	37	吉野川	0044	47	2008/8/9 1 鷹山公園 1034 1000
		川べりに群れる。			上空を飛翔。
2008/10/18	5	吉野川	0040	52	28 チゴハヤブサ <i>Falco subbuteo</i>
		川面に浮かぶ。			2008/6/14 1 竜王山 1034 1000
17 オナガガモ <i>Anas acuta</i>					鉄塔にとまる。
2007/12/2	20+	吉野川	0052	52	29 チョウゲンボウ <i>Falco tinnunculus</i>
		岸辺で休息。			2007/12/8 1 郡里 0066 50
2008/3/2	6	吉野川	0052	52	♂成鳥。乾田地帯の電線にとまる。
		岸辺で休息。			2007/12/24 1 郡里 0066 50
18 キンクロハジロ <i>Aythya fuligula</i>					♂成鳥。農耕地でカラス類を追ったり追われたり。
2008/3/22	1	坊僧	0076	140	◎ キジ目 GALLIFORMES
		池で他の水鳥と一緒に泳ぐ。			○ キジ科 Phasianidae
◎ タカ目 FALCONIFORMES					30 ウズラ <i>Coturnix japonica</i>
○ タカ科 Accipitridae					2008/6/7 1 轟 0066 50
19 ミサゴ <i>Pandion haliaetus</i>					丈の低い草の畔から飛び立つ。
2007/12/24	1	吉野川	0041	55	31 ヤマドリ <i>Syrnaticus soemmerringii</i>
		川に沿って上空を飛翔。			2008/2/16 2 林道竜王塩江線 1013 720
2008/9/23	3	三頭山	0093	740	日溜まりの法面ブッシュで。
		渡り。空高く別個に東から西へ飛行。			2008/3/29 1 讃岐竜王山 1034 1060
20 ハチクマ <i>Pernis apivorus</i>					♂成鳥。山頂登山道を横切る。
2008/9/23	3	三頭山	0093	740	32 キジ <i>Phasianus colchicus</i>
		渡り。午前7時25分から午後3時までの間で。			2008/2/11 2 妙見 0054 57
2008/9/24	1	蕨草	0086	180	畑で採餌中のペア。驚いて飛去した。
		渡り。正午から午後3時半までの間で。			2008/7/6 4 吉野川 0055 50
21 トビ <i>Milvus migrans</i>					雑草の中をヒナ2羽連れて歩く。
2008/1/26	12	露口	0052	60	◎ ツル目 GRUIFORMES
		食鳥処理場上空に群れる。			○ クイナ科 Rallidae
2008/6/13	1	竜王山	1034	1050	

- 鳴きながら樹幹を上る。
2008/1/19 1 中野谷川 0082 100
樹幹をつつく。
- 52 オオアカゲラ *Dendrocopos leucotos*
2008/10/13 1 林道竜王塩江線 1013 880
枯れたヤマザクラの幹で鳴く。
- 53 コゲラ *Dendrocopos kizuki*
2007/12/24 2 竜王山 1034 1020
ハゼの実を食す。
2008/7/26 1 中野谷川 0072 100
樹幹をつつく。
- ◎ スズメ目 PASSERIFORMES
- ヤイロチョウ科 Pittidae
- 54 ヤイロチョウ *Pitta brachyura*
2008/6/7 1 竜王山 — —
林道上方の林から囀り声。
2008/8/3 1 惣後 — —
遠くない谷上から囀り2回。
- ヒバリ科 Alaudidae
- 55 ヒバリ *Alauda arvensis*
2008/2/11 1 轟 0066 51
農耕地上空で囀り飛翔。
2008/7/6 7 吉野川 0055 50
雑草の中で。
- ツバメ科 Hirundinidae
- 56 ツバメ *Hirundo rustica*
2008/7/6 1巢 妙見 0054 70
3ヒナ在巢。2度目の繁殖。
2008/8/2 26 大久保 0096 200
電線に並ぶ。
- 57 コシアカツバメ *Hirundo daurica*
2008/7/6 1巢 喜来 0054 70
幼稚園2階に新しく作った巢あり。
2008/9/24 1 美馬食肉センター 0055 52
堤防上や河川敷上を飛ぶ。
- 58 イワツバメ *Delichon urbica*
2008/1/26 4 吉野川 0055 45
上空を飛翔。
2008/9/23 40+ 三頭山 0093 740
鍋倉谷上空を飛行。
- セキレイ科 Motacillidae
- 59 キセキレイ *Motacilla cinerea*
2008/2/10 1 坊僧 0076 130
舗装道路上に。
2008/9/24 4 中鳥 0051 58
中鳥川左岸の道に下りる。
- 60 ハクセキレイ *Motacilla alba*
2007/12/31 30 四国三郎の郷 0040 60
芝生のグラウンドで採餌。
2008/4/19 1 滝ノ宮 0064 100
耕した田で採餌する♂。
- 61 セグロセキレイ *Motacilla grandis*
2007/12/2 8 吉野川 0040 60
河川敷を歩く。
2008/8/2 5 竹ノ内 0051 63
成鳥1羽、幼鳥4羽が水路で採餌。
- 62 ビンズイ *Anthus hodgsoni*
2008/1/26 5 八幡神社 0051 80
カキ、ハッサク畑で。
2008/11/2 1 林道竜王塩江線 1013 800
アカマツ林の林床で。
- 63 タヒバリ *Anthus spinoletta*
2007/12/24 41 四国三郎の郷 0040 55
河川敷の芝生グラウンドで。
2008/2/10 3 吉野川 0055 50
路上で採餌。
- ヒヨドリ科 Pycnonotidae
- 64 ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis*
2008/2/16 60 吉野川 0054 50
木の実を採食中。
2008/10/19 10 野村谷川 1015 300
木にとまったり飛翔したり。
- モズ科 Laniidae
- 65 モズ *Lanius bucephalus*
2008/2/16 2 吉野川 0054 50
河川敷の木にとまる。
2008/9/24 1 竹ノ内 0051 58
エノキの頂きにとまる。
- カワガラス科 Cinclidae
- 66 カワガラス *Cinclus pallasii*
2008/3/2 1 大久保 1005 180
堰堤の端にとまる。
2008/10/19 1 野村谷川 1015 300
水面上を飛翔。
- ミソサザイ科 Troglodytidae
- 67 ミソサザイ *Troglodytes troglodytes*
2008/4/29 1 竜王山 1034 970
谷間から囀り声。
2008/7/8 2 竜王山 1023 960
スギ混交林中、水溜まりで水浴び。
- イワヒバリ科 Prunellidae
- 68 カヤクグリ *Prunella rubida*
2007/12/8 1 竜王山 1034 1020
ススキ原で「チリッリリッ」と地鳴き。
2008/1/6 1 竜王山 1023 1000
車道沿いのブッシュで。
- ツグミ科 Turdidae
- 69 コルリ *Luscinia cyane*
2008/5/3 1 高瀬谷 0070 220
落葉広葉樹二次林の谷で囀る。
- 70 ルリビタキ *Tarsiger cyanurus*
2007/12/24 3 竜王山 1034 1020
サクラの枝にとまる。
2008/4/26 1 清田 1025 550
枝にとまって鳴く。
- 71 ジョウビタキ *Phoenicurus aureoreus*
2008/1/6 4 沼田 0053 60
ガマにとまって採餌。
2008/3/2 1 青石橋 0052 52
草地で♂。
- 72 ノビタキ *Saxicola torquata*
2008/10/13 3 郡里 0066 50
草地の畦の杭上や、田のセンダングサにとまる。

73	トラツグミ <i>Zoothera dauma</i>	2007/12/24	1	竜王山	1033	1000		
	広葉樹の二次林で。							
74	マミジロ <i>Turdus sibiricus</i>	2008/9/15	1	林道竜王塩江線	1013	800		
	ヤシャブシの樹冠下の枝を移動。							
75	クロツグミ <i>Turdus cardis</i>	2008/4/29	1	竜王山	1034	1000		
	車道下の谷から囀り声。							
	2008/6/14	2	林道竜王塩江線	1013	850			
	同種の♂に追われる。							
76	アカハラ <i>Turdus chrysolaus</i>	2008/11/14	1	吉田谷川	0066	55		
	エノキの梢にいたが、ブッシュの中に下りた。							
77	シロハラ <i>Turdus pallidus</i>	2007/12/8	1	野田ノ井	0093	550		
	墓地で地鳴きを聞く。							
	2008/2/11	2	東宮ノ上	0051	100			
	倭大国魂神社境内で採餌。							
78	ツグミ <i>Turdus naumanni</i>	2007/12/30	16	喜来	0055	50		
	センダンにとまる。							
	2008/4/29	2	野田ノ井	0093	600			
	三頭ふれあいの森で。草地で採餌。							
○	ウグイス科 <i>Sylviidae</i>							
79	ヤブサメ <i>Urosphena squameiceps</i>	2008/4/19	1	上野	0070	300		
	密生した竹林から囀り声。							
	2008/5/3	1	高瀬谷	0070	300			
	谷間のザレ地に生えたキイチゴの下を移動。							
80	ウグイス <i>Cettia diphone</i>	2008/3/22	1	東宮ノ上	0051	100		
	倭大国魂神社境内で、きれいに囀る。							
	2008/4/20	9	清田	1025	550			
	ブッシュの中から鳴き声。							
81	オオヨシキリ <i>Aerocephalus arundinaceus</i>	2008/5/3	4	高瀬谷川河口	0040	55		
	ヤナギが生えたヨシ原で。							
	2008/7/6	1	沼田	0053	60			
	猿ヶ谷橋西の桑にとまり囀る。							
82	メボソムシクイ <i>Phylloscopus borealis</i>	2008/9/15	1	林道竜王塩江線	1013	780		
	茂った広葉樹の中枝で囀る。							
83	センダイムシクイ <i>Phylloscopus coronatus</i>	2008/4/19	1	高瀬谷	0070	300		
	落葉広葉樹二次林の谷で囀る。							
	2008/4/29	1	竜王山	1034	1030			
	ミズナラの林で囀る。							
84	クキイタダキ <i>Regulus regulus</i>	2007/12/24	1	竜王山	1034	1020		
	ヒノキの枝先でホバリング。							
85	セッカ <i>Cisticola juncidis</i>	2008/4/19	2	吉野川	0055	50		
	河川敷草地の上で囀る。							
	2008/5/25	1	吉野川	0041	52			
	左岸河川敷で囀る。							
○	ヒタキ科 <i>Muscicapidae</i>							
86	キビタキ <i>Ficedula narcissina</i>	2008/5/3	2	中鳥	0041	70		
	雌雄。吉野川河川敷の竹林に。							
	2008/6/6	1	惣後	1014	600			
	♂の囀りを聞く。							
87	オオルリ <i>Cyanoptila cyanomelana</i>	2008/4/26	2	清田	1025	550		
	スギの樹頂で囀る。							
	2008/6/14	1	竜王山	1034	1000			
	雑木林で囀る。							
88	エゾビタキ <i>Muscicapa griseisticta</i>	2008/9/21	6	三頭山	0093	730		
	サクラの枝先などを飛び移る。							
	2008/9/23	1	三頭山	0093	740			
	山頂のヒノキの梢に飛来。							
89	コサメビタキ <i>Muscicapa dauurica</i>	2008/6/6	2	惣後	1014	600		
	繁殖中か、給餌していた。							
	2008/7/1	2	林道竜王塩江線	1013	870			
	アカマツ混交林横の電線にとまる。							
○	カササギヒタキ科 <i>Monarchidae</i>							
90	サンコウチョウ <i>Terpsiphone atrocaudata</i>	2008/6/7	2	高瀬谷	0060	200		
	薄暗い二次林の谷で、姿と囀りを確認。							
	2008/8/3	1	惣後	1014	640			
	地鳴きが聞こえるも姿は見えず。							
○	エナガ科 <i>Aegithalidae</i>							
91	エナガ <i>Aegithalos caudatus</i>	2008/1/2	20+	鍋倉谷川	0074	150		
	河畔の枯れ草からノイバラに移る。							
	2008/4/6	1	轟	0066	55			
	天都賀佐比古神社の満開桜で羽毛をくわえていた。							
○	シジュウカラ科 <i>Paridae</i>							
92	コガラ <i>Parus montanus</i>	2008/3/29	2	阿波竜王山	1034	1060		
	シラカバの梢で採餌。枝移り。							
	2008/5/17	7	夏弥喜	0091	500			
	枝を移動する。							
93	ヒガラ <i>Parus ater</i>	2008/3/29	1	阿波竜王山	1034	1060		
	シラカバの梢で採餌。鳴きながら枝移り。							
	2008/6/7	2	中野	0090	800			
	ヒノキの枝を移動。							
94	ヤマガラ <i>Parus varius</i>	2008/4/20	6	清田	1025	550		
	木の新芽をつつく。							
	2008/5/13	1	美馬温泉	1015	250			
	枝上で青虫を補食。							
95	シジュウカラ <i>Parus major</i>	2008/2/10	7	吉野川	0055	50		
	枝移り。							
	2008/6/7	6	中野	0090	800			
	ヒノキにとまって鳴く。							
○	ゴジュウカラ科 <i>Sittidae</i>							
96	ゴジュウカラ <i>Sitta europaea</i>	2007/12/24	1	竜王山	1034	1040		
	竜王神社裏のミズナラ林で。							

2008/2/11 10 蕨草 0086 190
 田圃で採餌。
 2008/4/6 1 吉野川 0055 48
 河川敷を下流へ飛去。

別表2 「美馬市美馬町」 獣類目録

1 ニホンノウサギ [ウサギ目ウサギ科]
 2008/5/3 1 下白地 0094 370
 上り車線に死体。
 2 ニホンリス [げっ歯目リス科]
 2008/1/6 1 竜王山 1013 820
 落葉広葉樹林中のヒノキ横枝で何かをかじる。
 2008/10/13 1 林道竜王塩江線 1013 800
 オニグルミの横枝の上から下へ逃げる。
 3 タヌキ [食肉目イヌ科]
 2008/10/13 1 猿坂 0084 300

国道438号, 山側車線で死体。
 2008/11/14 1 沼田 0053 60
 道路南端に死体。
 4 テン [食肉目イタチ科]
 2008/6/7 1 竜王山 1013 830
 午前5時16分, 二次林内林道を横切る。
 5 イタチ [食肉目イタチ科]
 2008/1/13 1 吉野川 0055 50
 竹林から車道を横切り, 草地沿いのブッシュへ。
 6 ハクビシン [食肉目ジャコウネコ科]
 2008/8/1 1 竜王山 1023 900
 午前4時24分, 林道沿いを歩き林の中へ。
 7 イノシシ [偶蹄目イノシシ科]
 2007/12/8 1 竜王山 1013 840
 落葉広葉樹二次林で, 落葉をかき分け餌探し。
 2008/8/1 2 野村谷川 0086 140
 母子。谷川の流れの中で, 石を反転し採餌。